

## シカ対策部会の報告

## 1 議題

- (1) 早池峰山シカ関連調査報告：資料 4
- (2) 早池峰山周辺国有林における二ホンジカ対策事業概要：資料 4 - 1  
植生保護柵の効果に関する検証結果について：資料 4 - 2
- (3) 早池峰シカ監視員の活動結果について
  - ア 早池峰シカ監視員による自動撮影カメラ調査結果：資料 4 - 3
  - イ 早池峰シカ監視員報告書とりまとめ：資料 4 - 4
- (4) 早池峰地域への防鹿柵の設置結果について：資料 4 - 6
- (5) 現状と今後の取組について：資料 4 - 7
- (6) その他

## 2 主な質疑・意見交換の内容

- (1) 早池峰山シカ関連調査報告：岩手県立博物館

## ア 早池峰センサーカメラ調査結果

昨年と同様、高標高に設置したカメラにおいても、低標高のカメラと同程度に高い頻度で、シカが撮影されている。

## (今年確認された悪い変化)

- ・昨年まではオスが大半を占めていた標高 1,590m のカメラで、メスの撮影頭数が急増
- ・標高 1,885m (御田植場) で出没頭数が急激に増加 (草地であること、オスが殆ど)
- ・これまで撮影されなかった高標高地域でもシカが撮影されており、今後、メスも高標高に出没するようになり、食害の影響が強まる可能性が高い。

## イ 食痕調査・植生モニタリング結果



図 1 食痕調査地点

## 〔小田越登山道〕

地点 (1・2)	樹林帯	植生の単純化、裸地化、乾燥化、低木の枯死が継続的に進行中
地点 (3・4)	風衝草原	食痕は発見されなかった。 ハイマツの成長が良好
地点 (5)	雪田草地	植生衰退、裸地化が急速に進行中
地点 (6)	風衝草原	食痕は発見されなかった (付近にシカの糞が発見された)

## 〔河原の坊登山道〕

- ・傾向に大きな変化なし。
- ・下部では裸地化が進行。上部の川沿いでも植生の消失や落葉層の流失、小規模な土砂崩れが進行。
- ・ほとんどの草本が食べられており、開花に至った草本はごくわずか。
- ・頭垢離上部 (柵の外側) でも食痕が増加。

## 〔主な質問・意見等〕

- ・シカを目撃が増えているのは、シカが活動する範囲が広がったということか (遠野市)
- ・温暖化の影響などで、シカの行動形態も変化しているといえるか (東北森林管理局)

(2) 早池峰山周辺国有林における二ホンジカ対策事業概要…東北森林管理局

早池峰山周辺森林生態系保護地域内に設置した植生保護柵の効果に関する検証結果について

- ・令和6年度に門馬コースに植生保護柵を設置しており、設置後の効果を検証したもの。
- ・柵内の植生には、シカによるものと思われる新たな食害は見られず効果的に機能している
- ・柵外の植生は、シカの食害の影響を受けており、本来シカが好んで食べないヤマトリカブトやユモトマムジグサ等も食害を受けている状況。

(3) 早池峰シカ監視員の活動結果について

ア 早池峰シカ監視員による自動撮影カメラ調査結果

河原坊登山道に2台、小田越登山道に3台のカメラの設置による調査の結果、昨年度と比較して、シカの撮影頻度が増加した地点は5地点のうち2地点であった。(河原の坊登山道で増加、小田越登山道については、横ばい傾向)

イ 早池峰シカ監視員報告書取りまとめ

花巻地域では、河原坊付近の出現率が令和5年度比で増加している。また、清廉ノ滝に設置している監視カメラにイノシシが映っており、付近に生息している可能性が高い。(令和5年度もイノシシが2頭撮影)

宮古地域では、4月中の目撃数は少なかったが、9月以降は各所で満遍なく、オス、メス混在して確認された。

[主な質問・意見等]

- ・清廉ノ滝付近で昨年引き続きイノシシが確認されていることから、早池峰山にもイノシシが生息し始めたといえる
- ・イノシシを山に上げない良い方法はないのか

(4) 早池峰地域への防鹿柵の設置結果について

防鹿柵設置後の網の緩みや支柱の傾き等を原因とする柵内へのシカ侵入対策として、県・ボランティアの協力もと、設置後メンテナンスを7/13(小田越2合目)及び9/5(薬師岳登山口、小田越2合目)の2回実施。

(5) 現状と今後の取組について

- ・県及び東北森林管理局の2者が中心となって設置している防鹿柵の設置箇所のこれ以上の拡大は、予算や人員体制の面から困難な状況。今後、設置箇所を拡大するにあたっては、早池峰山の環境保全対策に関わるすべての関係者の主体的な関与が必要不可欠である。
- ・令和7年度の防鹿柵の設置については、現状の対応を維持しながら、今後の防鹿柵の設置や管理の体制について検討することとする。

[主な質問・意見等]

- ・今後、対応方針を決める際は、環境省にも参加してもらい、環境省が全国で実施している実績と知見を早池峰山の環境保全対策にも活かしながら、有効な対策を行っていきたい
- ・早池峰地域には、自然環境保全地域(環境省所管)及び特別天然記念物(教育委員会、文化庁)の指定区域があるので、それらを所管する機関と連携した対策を取ってほしい

## 2024 年度 早池峰山シカ関連調査 報告

鈴木まほろ（岩手県立博物館）

## 1. 早池峰山センサーカメラ調査結果

- |       |                   |       |
|-------|-------------------|-------|
| 1 - 1 | 結果まとめ             | p.2   |
| 1 - 2 | センサーカメラ設置位置及び撮影結果 | p.3   |
| 1 - 3 | 各カメラの撮影結果         | p.4-5 |
| 1 - 4 | 年次比較              | p.6   |

## 2. 食痕調査・植生モニタリング結果 p.7-12

## 3. 防鹿柵の効果検証結果 p.13-14

1-1 まとめ

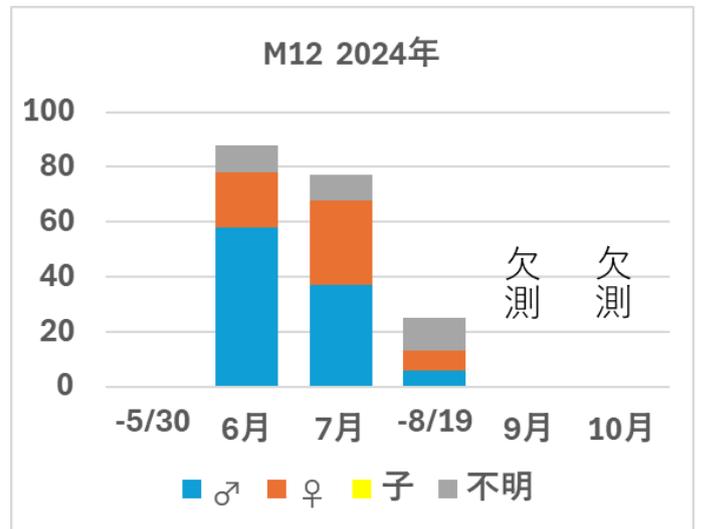
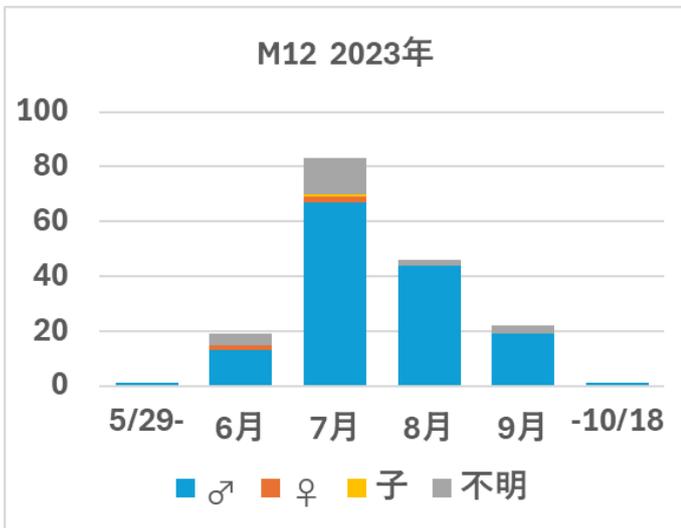
昨年と同様、高標高に設置したカメラにおいても、低標高のカメラと同程度に高い頻度で、シカが撮影されている。

悪い変化として、下記の3点が指摘できる。

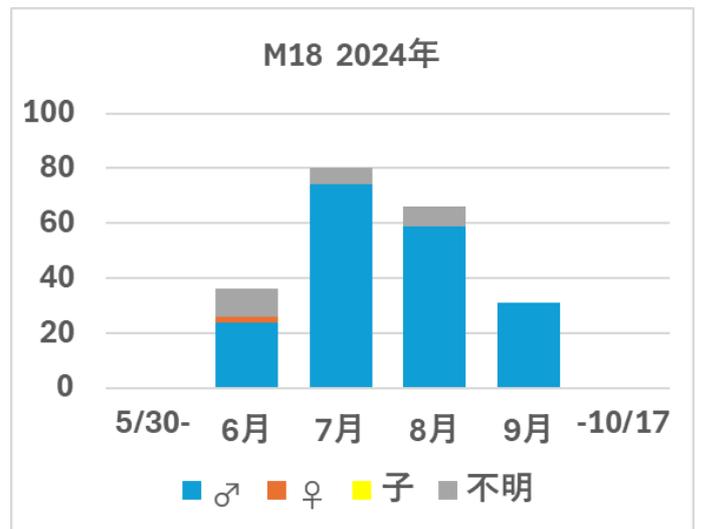
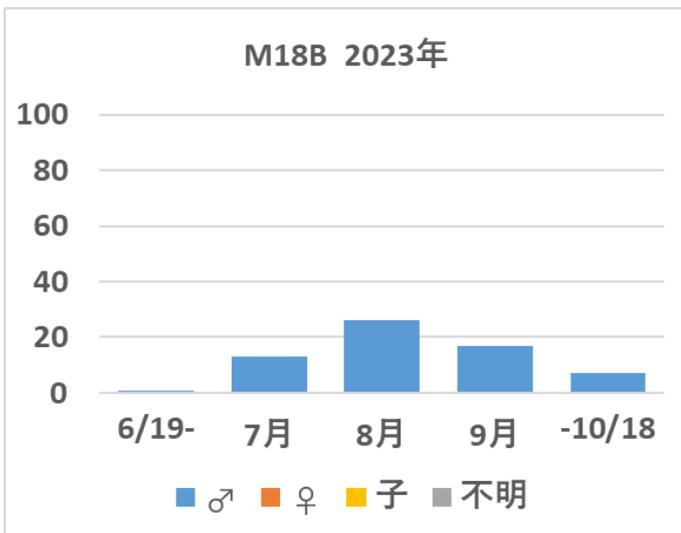
- ・昨年まではオスが大半を占めていた M12 のカメラで、メスの撮影頭数が急増した。
- ・M18（御田植場）で出没頭数が急激に増加した。
- ・これまでシカがほとんど撮影されなかった M20 と M14 でも撮影されるようになった。

今後、メスも高標高に出没するようになり、食害の影響がますます強まる可能性が高い。

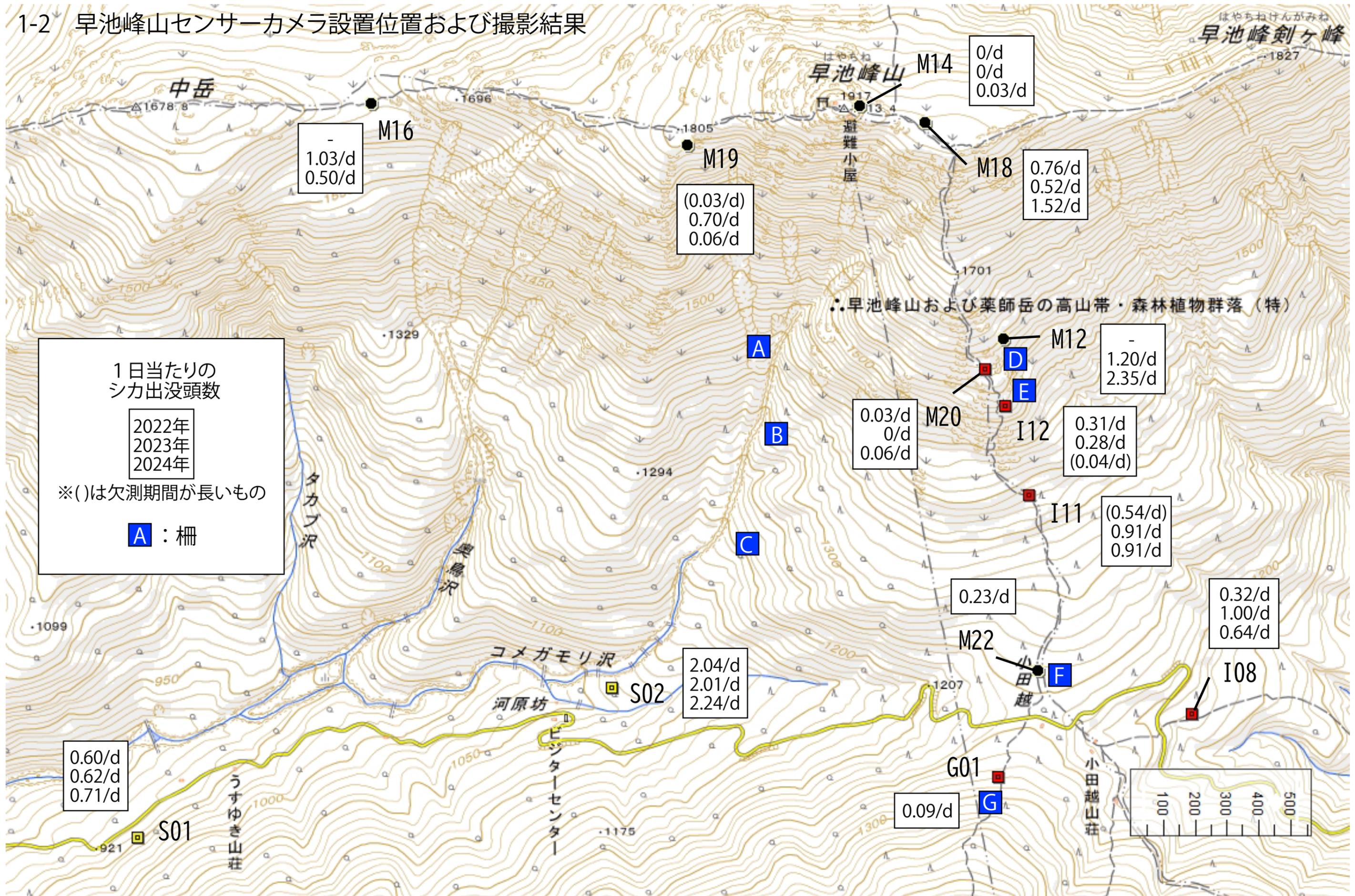
M12 の撮影結果 2023 年と 2024 年の比較



M18 の撮影結果 2023 年と 2024 年の比較



1-2 早池峰山センサーカメラ設置位置および撮影結果



## 1-3 各カメラの撮影結果 2024年5月～10月 その1

No.	標高(m)	設置	最終	設置日数	欠測始	欠測終	欠測日数	実測日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不	備考	シカ計	1日当
M22	1250	5/30	10/17	141				141	16	8	0	8	柵	32	0.23
G01	1280	5/3	8/26	116				116	2	4	0	4	柵	10	0.09
I08	1180	5/3	10/24	175				175	24	58	9	21		112	0.64
I11	1370	5/6	10/21	169				169	58	65	9	22		154	0.91
I12	1530	5/3	10/21	172	5/26	7/10	46	126	5	0	0	0	柵	5	0.04
S01	940	5/3	10/31	182				182	26	70	3	30		129	0.71
S02	1065	5/3	10/31	182				182	95	256	32	24		407	2.24
M12	1590	5/30	8/18	81				81	101	58	0	31	(柵)	190	2.35
M14	1900	5/30	10/17	141				141	3	0	0	1		4	0.03
M16	1630	5/30	10/17	141				141	46	20	0	5		71	0.50
M18	1885	5/30	10/17	141			1	140	188	2	0	23		213	1.52
M19	1798	5/30	10/17	141			1	140	5	0	0	3		8	0.06
M20	1560	5/18	10/21	157				157	8	0	0	2		10	0.06

参考 2023年

No.	標高(m)	設置	最終	設置日数	欠測始	欠測終	欠測日数	実測日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不	備考	シカ計	1日当
I08	1180	5/13	10/24	165				165	32	102	11	20		165	1.00
I11	1370	5/5	10/24	173				173	54	80	7	16		157	0.91
I12	1530	6/10	10/24	137				137	4	25	0	10	柵	39	0.28
S01	940	4/19	11/9	205	5/1	5/23	23	182	23	73	9	7		112	0.62
S02	1065	5/8	11/9	186				186	68	245	40	20		373	2.01
M12	1590	5/29	10/18	143				143	145	4	1	22	柵	172	1.20
M14	1900	5/29	10/18	143				143	0	0	0	0		0	0.00
M16A	1630	6/19	10/18	122				122	44	25	0	13		82	0.67
M16B	1630	6/19	10/18	122				122	67	37	2	20		126	1.03
M18A	1885	5/23	10/24	155	5/31	6/10	11	144	48	0	0	0		48	0.33
M18B	1885	6/19	10/18	122				122	64	0	0	0		64	0.52
M19	1798	6/19	10/18	122	8/11	8/27	17	105	48	2	0	24		74	0.70
M20	1560	5/23	10/24	155				155	0	0	0	0		0	0.00

参考 2022年

No.	標高(m)	設置	最終	設置日数	欠測始	欠測終	欠測日数	実測日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不	備考	シカ計	1日当
I08	1180	4/22	10/29	191			0	191	8	33	5	16		62	0.32
I11	1370	5/7	10/27	174	7/1	8/23	54	120	21	37	0	7		65	0.54
I12	1530	6/4	10/27	146			0	146	6	15	0	24	柵	45	0.31
S01	940	5/5	10/30	179			0	179	24	62	7	15		108	0.60
S02	1065	5/5	10/30	179	9/15	10/6	22	157	46	187	43	44		320	2.04
M12	1590	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	柵	-	-
M14	1900	7/1	10/7	99			0	99	0	0	0	0		0	0.00
M16	1630	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		-	-
M18	1885	7/1	10/7	99			0	99	58	0	0	17		75	0.76
M19	1767	7/1	10/7	99	8/13	8/22	10	89	1	0	0	2		3	0.03
M20	1560	7/1	10/7	99			0	99	3	0	0	0		3	0.03

参考 2021年

No.	標高(m)	設置	最終	設置日数	欠測始	欠測終	欠測日数	実測日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不	備考	シカ計	1日当
I08	1180	5/21	10/23	156	5/21	7/27	68	88	22	25	6	8		61	0.69
I11	1370	5/21	10/23	156	5/21	7/31	72	84	16	24	0	8		48	0.57
I12	1530	5/31	9/22	115	5/31	8/3	65	50	0	7	0	6	柵	13	0.26
S01	940	4/23	10/28	189			0	189	59	127	26	39		251	1.33
S02	1065	4/23	10/28	189			0	189	42	119	15	20		196	1.04
M12	1590	6/5	10/22	140			0	140	129	7	0	18	柵	154	1.10
M14	1900	6/5	10/18	136			0	136	0	0	0	0		0	0.00
M16	1630	6/21	10/18	120	8/31	10/18	49	71	39	13	0	7		59	0.83
M18	1885	6/5	10/18	136			0	136	5	0	0	1		6	0.04
M19	1767	8/23	10/4	43			0	43	1	0	0	0		1	0.02
M20	1560	6/21	10/18	120			0	120	1	0	0	0		1	0.01

## 1-3 各カメラの撮影結果 2024年5月～10月 その2

No.	標高(m)	カモシ	ノウサ	クマ	テン	タヌキ	アナグ	キツネ	ネズミ	トリ	ハクビ	リス	備考
M22	1250	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
G01	1280	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	柵内1回
I08	1180	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	3	
I11	1370	2	3	2	1	0	0	1	0	0	0	2	
I12	1530	0	15	3	0	0	0	1	0	19	0	0	柵内0回
S01	940	0	0	2	3	0	3	1	0	0	0	0	
S02	1065	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
M12	1590	2	39	1	2	0	0	1	0	14	0	0	
M14	1900	10	7	0	0	0	0	3	0	1	0	0	
M16	1630	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M18	1885	3	64	0	0	0	0	3	0	0	0	0	
M19	1798	16	6	0	0	0	0	1	0	10	0	0	
M20	1560	1	2	1	0	0	0	0	0	6	0	0	

参考 2023年

No.	標高(m)	カモシ	ノウサ	クマ	テン	タヌキ	アナグ	キツネ	ネズミ	トリ	ハクビ	リス	備考
I08	1180	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
I11	1370	1	15	4	5	0	1	2	0	0	0	0	
I12	1530	4	2	3	0	0	0	0	0	1	0	0	柵内10回
S01	940	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
S02	1065	2	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	
M12	1590	0	6	1	0	0	0	3	0	11	0	0	柵内24回
M14	1900	6	0	0	0	0	0	1	0	49	0	0	
M16A	1630	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M16B	1630	1	2	0	2	0	1	1	0	0	0	0	
M18A	1885	3	20	2	1	0	0	4	0	12	0	0	
M18B	1885	6	16	1	0	0	0	3	0	1	0	0	
M19	1798	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M20	1560	0	6	0	0	0	0	3	0	7	0	0	

参考 2022年

No.	標高(m)	カモシ	ノウサ	クマ	テン	タヌキ	アナグ	キツネ	ネズミ	トリ	ハクビ	リス	備考
I08	1180	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	
I11	1370	1	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	
I12	1530	16	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	柵内23回侵入
S01	940	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
S02	1065	2	0	5	0	0	1	1	0	0	0	0	
M12	1590	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
M14	1900	44	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	
M16	1630	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
M18	1885	26	39	0	2	0	0	6	0	0	0	0	
M19	1767	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M20	1560	1	1	1	1	0	0	0	1	6	0	0	

参考 2021年

No.	標高(m)	カモシ	ノウサ	クマ	テン	タヌキ	アナグ	キツネ	ネズミ	トリ	ハクビ	リス	備考
I08	1180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
I11	1370	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
I12	1530	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	柵内4回
S01	940	1	0	2	0	0	16	0	0	0	0	0	
S02	1065	3	1	1	4	1	3	0	0	13	0	0	
M12	1590	4	7	1	0	0	0	0	0	5	0	0	柵内4回
M14	1900	17	18	1	1	0	0	5	0	16	0	0	
M16	1630	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M18	1885	57	74	1	1	0	0	12	0	6	0	0	
M19	1767	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
M20	1560	2	1	0	1	0	0	0	0	4	0	0	

## 1-4 各カメラの撮影結果 年次比較（出没頭数／日）

No.	標高(m)	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
M01	550	5.44	5.77	未	未	未	未
S01	940	2.16	1.55	1.33	0.60	0.62	0.71
S09	970	-	0.69	0.46	1.59	-	-
S07	1050	-	0.41	0.54	0.59	-	-
S02	1065	0.56	1.25	1.04	2.04	2.01	2.24
ST1	1130	-	-	1.14	0.72	-	-
I08	1180	1.06	0.71	0.69	0.32	1.00	0.64
S08	1180	-	0.50	-	-	-	-
S08B	1180	-	0.69	0.80	0.27	-	-
I14B	1230	-	0.13	0.44	0.41	-	-
S03	1250	0.44	0.33	0.48	0.32	-	-
I17	1280	1.74	0.22	0.10	0.24	-	-
I10	1290	0.23	-	-	-	-	-
I11	1370	1.17	1.58	0.57	0.54	0.91	0.91
I19	1374	-	1.68	0.97	1.64	-	-
S04	1380	0.04	-	-	-	-	-
S05	1420	0.10	0.48	0.37	0.51	-	-
S06	1500	0.00	-	-	-	-	-
I12	1530	1.13	0.23	0.26	0.31	0.28	(0.04)
I16	1530	0.89	0.62	0.60	1.10	-	-
M20	1560	0	0	0.01	0.03	0	0.06
M12	1590	1.52	0.43	1.10	-	1.20	2.35
M16	1630	0.19	0.47	0.83	-	1.03	0.50
M11	1650	0.02	0.00	0.00	0	-	-
M21	1650	-	0	-	-	-	-
I18	1680	0.52	0.84	0.90	0.94	-	-
M13	1680	0.86	0.67	0.71	-	-	-
M19	1798	-	-	0.02	0.03	0.70	0.06
I15	1790	0.00	-	-	-	-	-
I20	1819	-	0.49	0.54	0.15	-	-
I14	1850	0.00	-	-	-	-	-
M22	1850	-	0	-	-	-	-
I13	1880	0.00	-	-	-	-	-
M17	1885	-	0	0.01	0	-	-
M18	1885	-	-	0.04	0.76	0.52	1.52
M14	1900	0	0	0.00	0	0	0.03
M15	1900	0	0	0.00	-	-	-

## 2. 食痕調査・植生モニタリング結果

### (1) 河原坊・小田越登山道 定例シカ食痕調査 (2015年～継続)

#### <調査日時・場所>

2024年8月7日(水) 10時～14時 (早池峰GVと合同)

河原坊登山道 登山口(標高1,050m)～1,400m付近

2024年8月19日(月)・21日(水)

小田越登山道 登山口(標高1,250m)～山頂(1,917m)～あきらケルン(1,805m)

#### <調査地点>

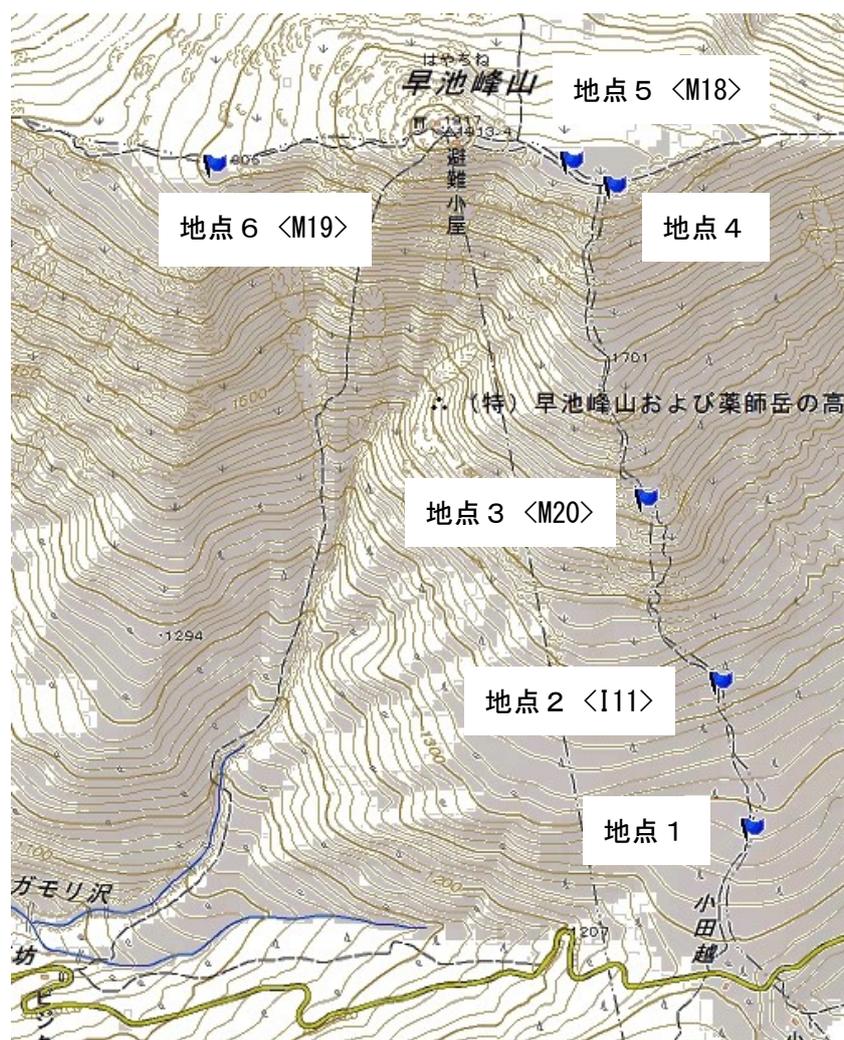


図1 食痕調査地点

地点1・2：樹林帯      地点3：3合目（風衝草原）      地点4：剣ヶ峰分岐（風衝草原）  
 地点5：御田植場（雪田草原）      地点6：あきらケルン（風衝草原）

### <記録方法>

ルート上で草食動物による食痕のあった種と、その頻度の目視確認・写真記録を行った。

小田越登山道では、上記に加え、登山道沿いに設けた6つの固定地点において、定点間を1m間隔で撮影記録した。(地点3・6は2022年新規設定。)

### <結果>

#### 1) 河原坊登山道 (森林帯)

傾向に大きな変化なし。下部では裸地化が進行。上部の川沿いでも植生の消失や落葉層の流失、小規模な土砂崩れが進行。ほとんどの草本が食べられており、開花に至った草本はごくわずか。

頭垢離上部 (柵の外側) でも食痕が増加。(詳細は柵効果検証結果を参照のこと。)

#### 2) 小田越登山道

森林帯 (地点1・2) フロラの単純化と裸地化、乾燥化、低木の枯死が継続的に進行中。

風衝草原 (地点3・地点4)・・・食痕は発見されなかった。ハイマツの成長が良好。

雪田草原 (地点5)・・・植生衰退、裸地化が急速に進行中。

風衝草原 (地点6)・・・食痕は発見されなかったが、付近にシカの糞が見つかった。

#### 3) 固有種の食痕

ミヤマヤマブキショウマ、ナンブトウウチソウに食痕が見られた。

地点< 2-3 >



2015



2017



2019



2021



2023



2024

地点<4-2>



2015



2017



2019



2021



2023



2024

<地点 5-3>



2015



2017



2019



2021



2023



2024

<地点 5 >



2015 年



2024 年

<地点 6 >



2022 年



2024 年

### 3. 防鹿柵の効果検証結果

防鹿柵の設置による保全の効果を検証するため、柵内外の植物の状態を調査した。

<実施日>2024年8月2日(金)柵A~C      8月7日(水)柵H  
 8月19日(月)柵E~G      8月21日(水)柵I

#### <方法>

柵内に生育する種名と開花痕跡の有無、植生の高さを記録した。柵外については柵の周囲(幅5m)について同様に記録した。柵EとFは開花痕跡のある種名と植生高のみを記録した。

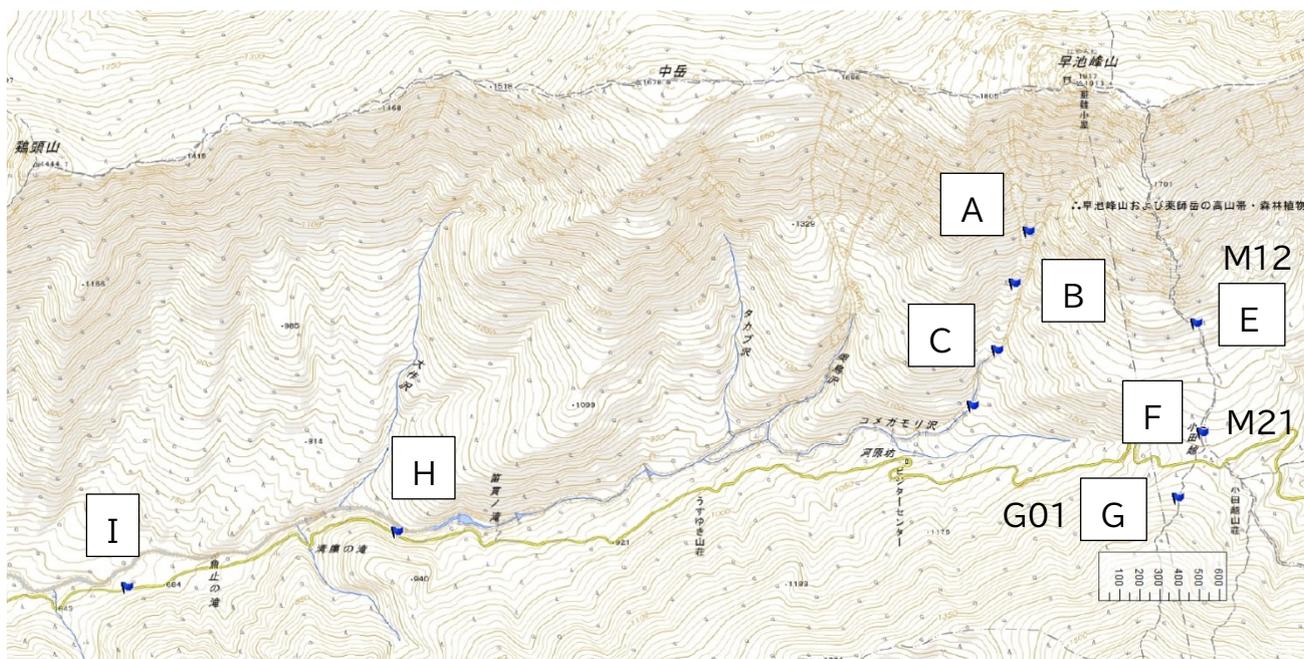


図 防鹿柵の設置位置

表 柵内外の植物調査結果

柵名	柵内 種数	柵外 種数	柵内草本種 開花割合	柵外草本種 開花割合	柵内 植生高	柵外 植生高	柵内 RL種数	設置 主体
A1	29	20	92%	56%	100cm	50cm	5	森
A2	44	34	89%	89%	150cm	30cm	14	森
B1	22	20	74%	22%	200cm	90cm	2	森
B2	21	12	67%	17%	160cm	160cm	1	県
C	25	16	39%	47%	70cm	30cm	0	県
E	(27)	(20)	-	-	80cm	80cm	9	県
F	(3)	(2)	-	-	150cm	150cm	2	県
G	19	12	8%	0%	100cm	100cm	1	県
H1	15	32	50%	30%	150cm	150cm	0	県
I	19	24	36%	33%	100cm	100cm	1	県

※EとFの柵内・柵外種数はそれぞれ開花痕跡が見られた種のみ数

- ・高標高（A・B）では、柵内種数、開花割合ともに柵内の方が高かった。
- ・中標高（C・G）では、生育種数は柵内の方が多いが、柵内の光環境が悪いため開花する種の割合が少なかった。柵外ではシカが食べない種のみが開花しているので、柵内外の開花割合の差が小さくなった。
- ・低標高（H・I）では、森林内のため光環境が悪く、種数・開花割合ともに小さかった。柵外にはシカが食べない種のみが残っているが、道路に接していて光環境が比較的良好のため、柵内よりやや種数が多かった。また、柵内にも網上げ前（早春）の食害の影響が若干あると考えられる。

令和6年度早池峰地域シカ対策部会

令和7年1月30日

## 早池峰山周辺国有林におけるニホンジカ対策事業概要

林野庁 東北森林管理局

事業名	令和6年度事業内容	令和7年度予定
早池峰山周辺地域ニホンジカ 生息状況・植生調査	<p><b>【目的】</b> ニホンジカによる森林内での樹皮剥ぎ及び枝葉や下層植生への食痕が見られ、高山植物への食害が発生している早池峰山及び周辺地域において、岩手県と連携し、有識者等の意見を踏まえながら、モニタリング調査等を実施してニホンジカの生息状況を把握し、今後のニホンジカ対策等に資する。</p> <p><b>【方法】</b> ・自動撮影カメラによる生息状況を把握する。 ・早池峰山登山道の「門馬コース」の登山口から山頂までの植生調査を実施する。登山道の中心から概ね30m幅(片側15m)の範囲内の植物種等を記録し、植物目録を作成する。併せて、位置情報を記録し、シカと思われる食痕も含め、図面に表示する。早池峰山登山道「門馬コース」沿いの植生やシカの被害状況等を把握する。 ・事業期間は6月～3月。</p> <p><b>【実施状況・成果】</b> ・自動撮影カメラ: 8月に20台センサーカメラを設置し、積雪前の11月上旬に回収。 ・植生調査: 6月下旬～7月上旬に実施し植生の状況等を確認。 ・2月5日、岩手県及び有識者等からなる調査検討委員会を開催予定。</p>	委員会での意見及び予算配賦に基づき検討
植生保護柵設置による高山 植生の保護 (早池峰山周辺森林生態系 保護地域)	<p><b>【目的】</b> ニホンジカによる高山植生への被害が発生している早池峰山周辺森林生態系保護地域において、固有種を含む高山植物への被害拡大の防止や植生の回復を図る。</p> <p><b>【方法】</b> 有識者等の意見を踏まえて、優先的に保護が必要な箇所において、岩手県と連携して植生保護柵を設置する。</p> <p><b>【実施状況・成果】</b> 植生保護柵の設置と既設部分の維持管理。 5～10月にかけて、河原の坊コース、門馬コースに9箇所、延長は373m(9箇所)の設置を実施した。 小田越コース440mは高山植物へのニホンジカによる食害を防護したが、当初の目的を果たさなかったことから、見直しを検討した結果、設置を行わないこととした。 門馬コースはコアツモリソウ、ヤブヒョウタンボクの保護を目的とし柵の移設及び新設を実施した。 8月9日に門馬コースの植生保護柵の効果の検証を行った。調査方法として、ヤブヒョウタンボクは株数、食痕、サイズ、結実、コアツモリソウは株数、結実の確認とし、他の柵と共通する調査項目としては定点からの写真撮影とした。 10月下旬には積雪による破損防止のため、各植生保護柵のネットを格納。</p>	有識者等の意見を踏まえて、関係機関と連携して実施予定

<p>「早池峰国定公園内の国有林野における防鹿柵(植生保護柵)の設置に関する協定」の締結</p>	<p>【目的】          全域が国有林野である早池峰国定公園において、岩手県と国有林が連携して植生保護柵を設置し、被害拡大の防止や植生の回復を図る。</p> <p>【方法】          令和元年6月28日付で、岩手県環境生活部長、三陸北部森林管理署長及び岩手南部森林管理署遠野支署長の3者が協定を締結し、植生保護柵の設置等に係る連携強化及び入林届等の事務手続の簡素化が図られた。          同協定は令和6年3月29日に更新締結している。</p> <p>【実施状況・成果】          岩手県及び国有林が設置した植生保護柵の既設総延長は1,123m</p>	<p>引き続き3者で連携して、植生保護柵の設置及び維持管理について取り組む</p>
<p>林道除雪による捕獲支援</p>	<p>【目的】          積雪期に国有林内の林道除雪を実施し、指定管理鳥獣捕獲等事業を支援する。</p> <p>【方法】          岩手県・県猟友会と除雪する路線を調整した上で、国有林の林道除雪を実施する。</p> <p>【実施状況・成果】          12月～3月に実施予定。          三陸北部森林管理署管内(宮古市):1路線、遠野支署管内(遠野市):8路線</p>	<p>12月～3月に実施予定</p>
<p>鳥獣被害対策協議会等への積極的な参画による地域との連携</p>	<p>【目的】          地域におけるニホンジカ対策のニーズの把握、地域と連携した対策の検討・実施。</p> <p>【方法】          遠野支署及び三陸北部森林管理署が地元の鳥獣被害対策協議会等へ参画。</p> <p>【実施状況・成果】          遠野支署、三陸北部森林管理署は情報提供等を実施。</p>	<p>引き続き協議会へ参画</p>
<p>ニホンジカ被害防除事業(誘引捕獲)の実施</p>	<p>【目的】          市町村の鳥獣被害対策協議会等と連携を図り、森林被害の軽減を図るため、効率的なニホンジカの捕獲に取り組む。</p> <p>【方法】          三陸北部署:誘引餌を用いたくりわなによる捕獲を実施。          遠野支署:越冬地箇所での誘引餌を用いたくりわなによる捕獲を実施。</p> <p>【実施状況・成果】          三陸北部署:宮古市立丸山国有林で9月10月～12月まで委託事業により誘引捕獲を実施し20頭を捕獲。          遠野支署:花巻市鶏頭山国有林等で12月～3月まで委託事業により実施中。</p>	<p>引き続き、同種事業を実施予定</p>

<p>協定に基づいた市町村等へのワナ貸出しによるニホンジカ捕獲支援</p>	<p><b>【目的】</b>  地域での捕獲対策を推進するため、わな貸し出しを行い、国有林及び地域によるニホンジカ対策に係る協力体制を構築する。</p> <p><b>【方法】</b>  森林管理署、地元自治体及び地元猟友会等とニホンジカ被害対策に係る協定を締結し、くくりわなの貸し出しを行い捕獲頭数を森林管理署に報告。</p> <p><b>【実施状況・成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠野支署 遠野市へくくりわな100基貸与。捕獲頭数は集計中。</li> <li>花巻市有害鳥獣被害防止対策協議会へ、くくりわな52基貸与。捕獲頭数は集計中。</li> <li>・三陸北部署 宮古市鳥獣被害防止対策協議会と協定を締結しているが今年度のわな貸付なし。</li> </ul>	<p>協定に基づいて引き続き取り組みを継続</p>
---------------------------------------	--	---------------------------

## 東北森林管理局

早池峰山周辺森林生態系保護地域内に設置した  
植生保護柵の効果に関する検証結果について

## 1 早池峰山周辺森林生態系保護地域内における植生保護柵の設置について

## (1) 植生保護柵設置の経緯

平成 30 年 3 月開催の早池峰地域鹿対策部会において、増え続けるニホンジカによる食害から貴重な植生を守ることを目的とした植生保護柵設置の提案があったことを受け、現地調査のうえで東北森林管理局と岩手県の合同により平成 30 年度から植生保護柵の設置を行っている（設置場所は別紙 1 参照）。

## (2) 植生保護柵の効果検証について

植生保護柵の効果については設置後に検証されていなかったため、岩手県立博物館の鈴木氏による指導・協力の下決定した以下の調査内容により、令和 6 年 8 月 9 日に早池峰山の登山道のうち門馬コースについて現地調査を行った。なお、河原の坊コース、小田越コースについては、岩手県立博物館が調査を行った。

## ア コアツモリソウに関する植生保護柵の効果検証・・・柵数：4

- (ア) 株数のカウント
- (イ) 株位置の記録
- (ウ) 食痕の有無の記録
- (エ) 結実の有無の記録
- (オ) 植生景観の撮影（柵の長辺、短辺 2 方向から撮影。目安は目線の高さ。）
- (カ) 柵内に県の RDB 掲載種があれば、種名と植生高を記録

※コアツモリソウは、元々植物体が小さくシカによる被食を原因とする矮小化が分かりづらいため、植生高は計測しなかった。

## イ ヤブヒョウタンボクに関する植生保護柵の効果検証・・・柵数：2

- (ア) 株数のカウント
- (イ) 樹高の測定（生きている幹の最高点の高さを記録）
- (ウ) 食痕の有無の記録
- (エ) 結実の有無の記録
- (オ) 植生景観の撮影（柵の長辺、短辺 2 方向から撮影。目安は目線の高さ。）
- (カ) 柵内に県の RDB 掲載種があれば、種名と植生高を記録

## 2 現地調査結果

柵内の植生にはニホンジカによるものと思われる新たな食害はほぼ見られず、

植生保護柵は効果的に機能しているものと思われる。ニホンジカによる食害により樹勢が衰えていたヤブヒョウタンボクについても、枝先まで葉を茂らせており結実も多かったため樹勢が回復しているものと考えられ、柵の設置の効果があったものと思われる。なお、柵外の植生はシカによる食害の影響を大きく受けており、本来シカが好んで食べないヤマトリカブトやユモトマムシグサ等も食害を受けている状況となっていた。調査結果について別紙2、3を参照されたい。

### 3 今後の方針

現状の保存方針を維持することが重要であると思われる。ニホンジカによる食害から貴重な植生が守られるよう今後も植生保護柵の設置（門馬コース）を継続する。

### 令和6年度 早池峰山植生保護柵 設置位置図

●:岩手県 ●:三陸北部署 ●:遠野支署  
 (この他、県道25号線沿いに岩手県が3箇所設置)

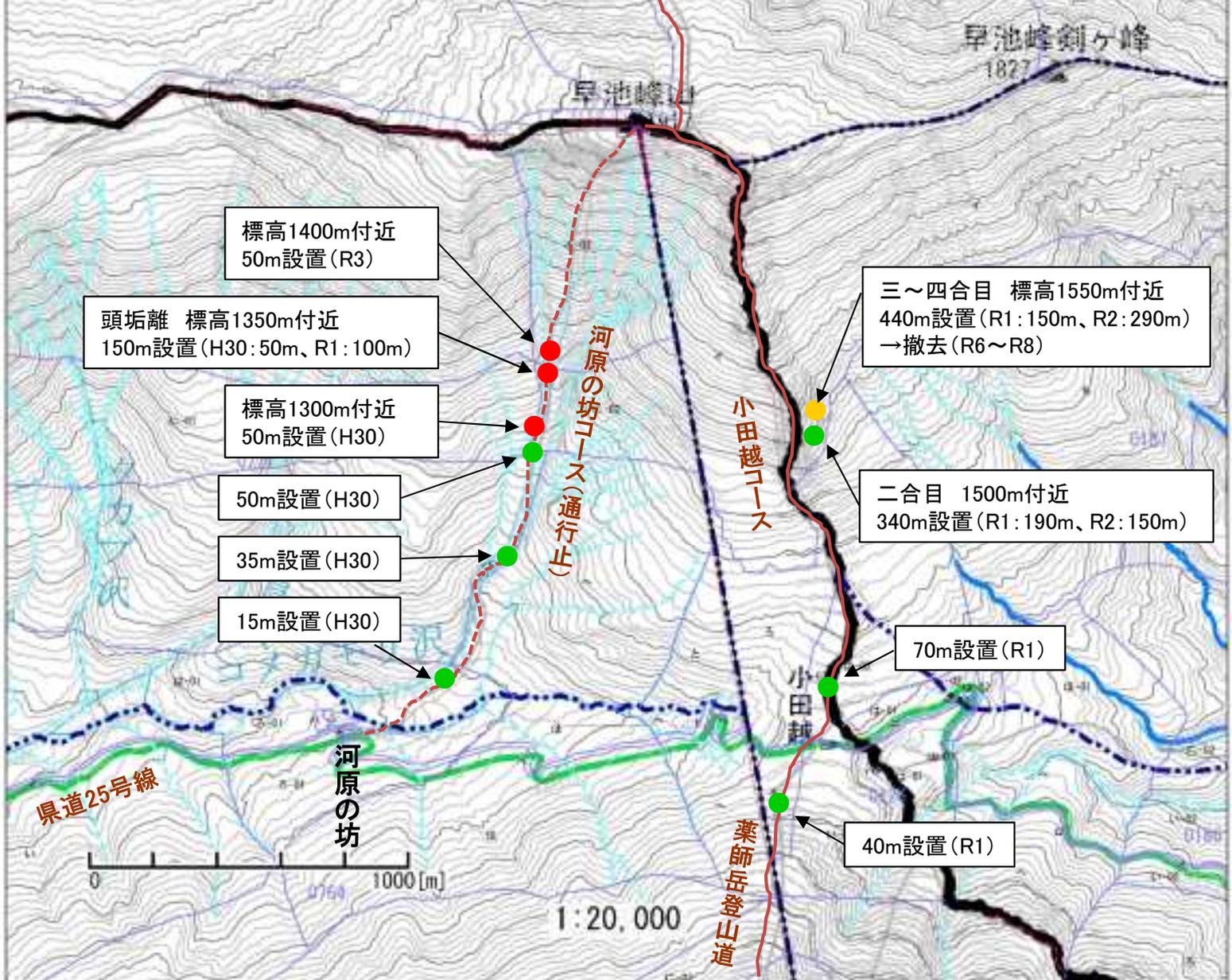
岩手県:750m、三陸北部署:123m、遠野支署250m、  
**合計1,123m設置**

①②③標高900m  
 付近19m,14m,23m  
 設置 (R6見直し)

既設:標高1000m付近  
 30m設置 (H30)

④標高1050m付近  
 19m設置 (R6新規)

⑤標高1050m付近  
 18m設置 (R6新規)







植生保護柵調査票

柵外登山道沿い

調査日

8月9日

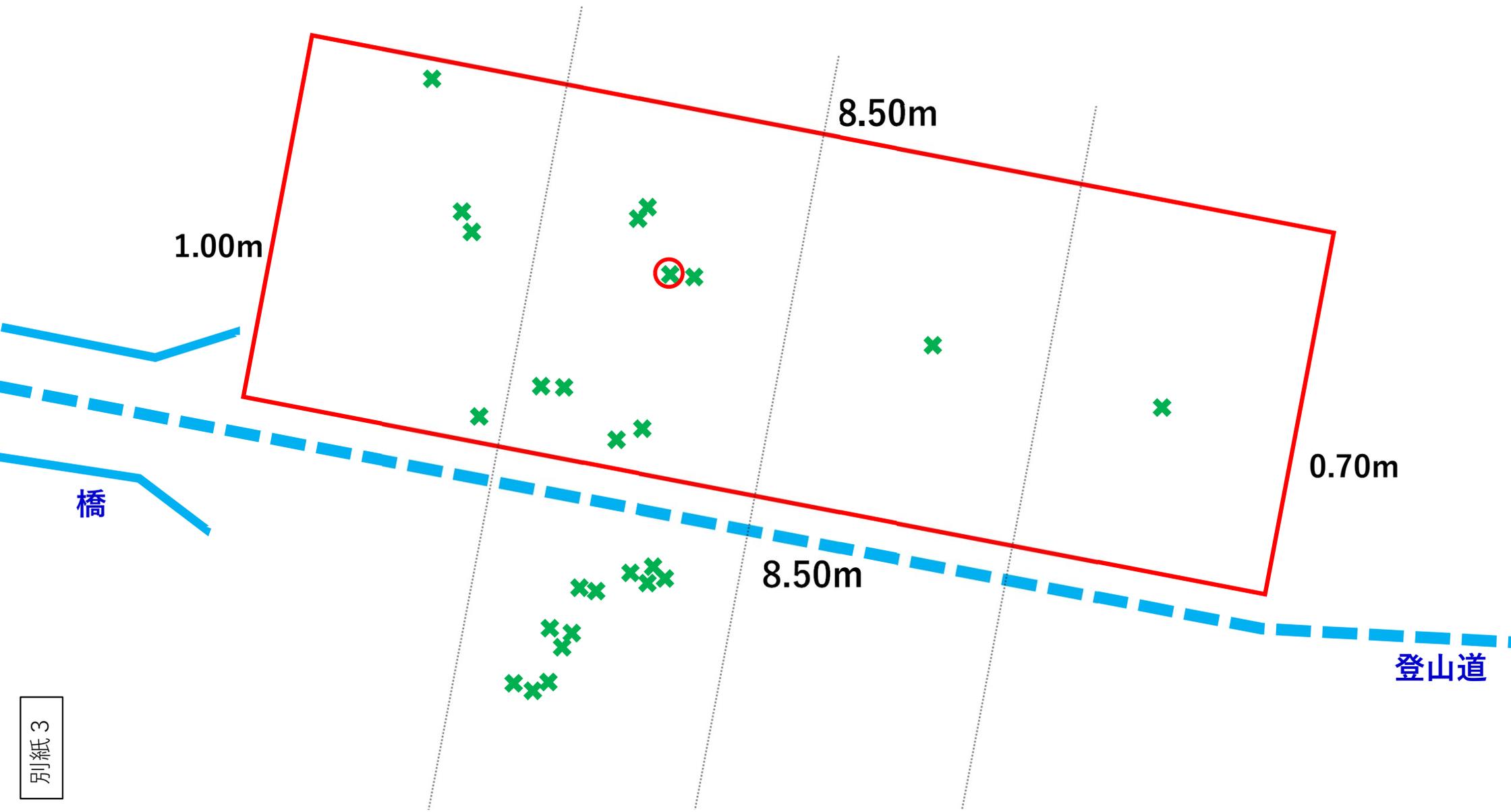
和名	柵内株数	開花・結実	食痕	柵外株数	開花・結実	食痕	RDB掲載
ユモトマムシグサ	-	-	-	4	2	1	○
ヒロハカツラ	-	-	-	1	-	-	○
ヤシヤビシヤク	-	-	-	1	-	-	○
ナガミノツルケマン (ツルケマンの可能性あり)	-	-	-	2	-	-	○
イチヨウラン	-	-	-	3	3	-	○
コアツモリソウ	132	○	○	17	-	-	○
ノビネチドリ	-	-	-	3	1	-	×
ヒバカリ (爬虫類)				1 個体			○

1

面積7.1244m<sup>2</sup>  
延長18.70m

### 支柱9本打設 (新設)

- 凡例
- ✕ : コアツモリソウ
  - : 開花・結実個体
  - : 食痕あり

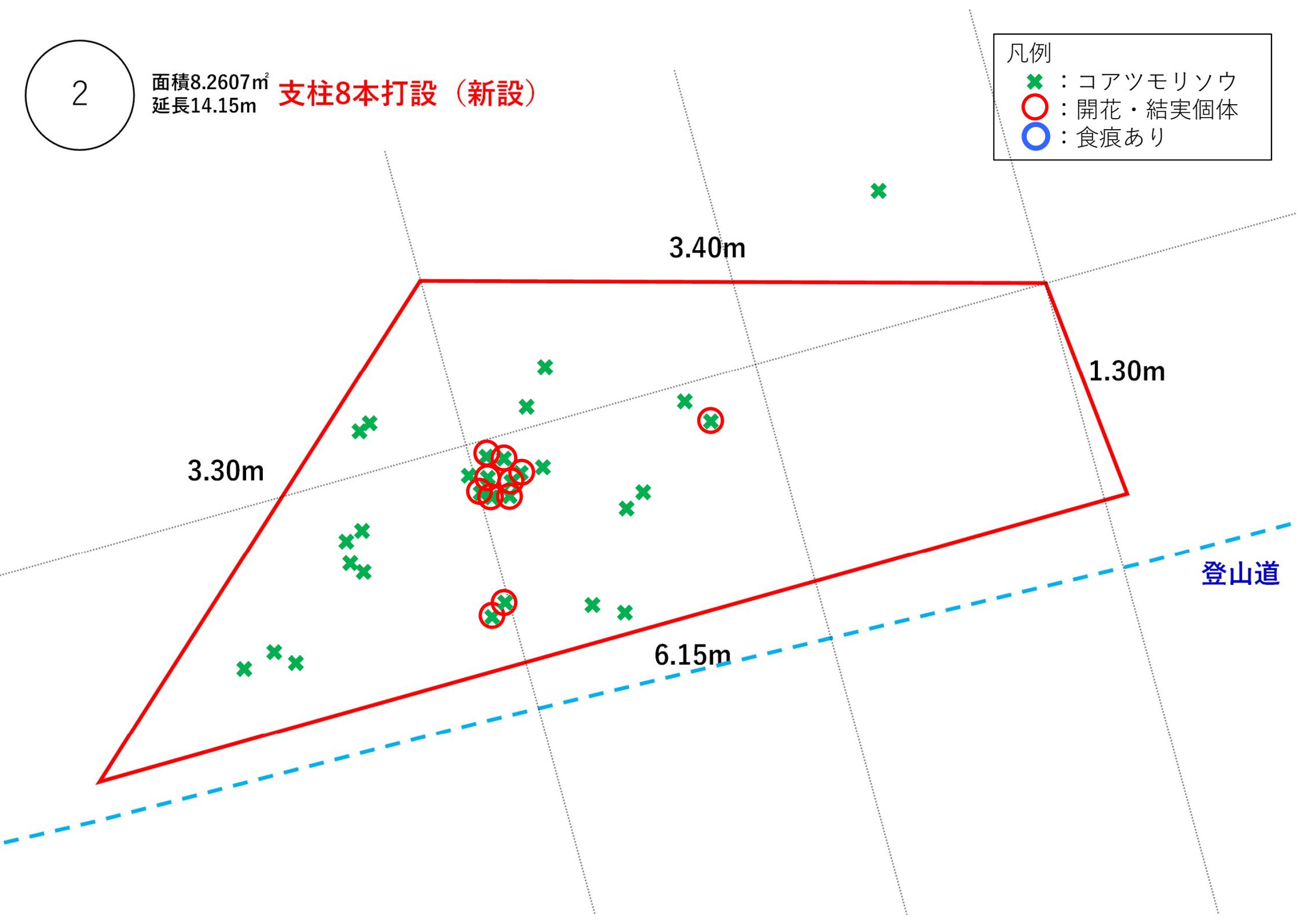


2

面積8.2607㎡  
延長14.15m

支柱8本打設 (新設)

- 凡例
- ✕ : コアツモリソウ
  - : 開花・結実個体
  - : 食痕あり

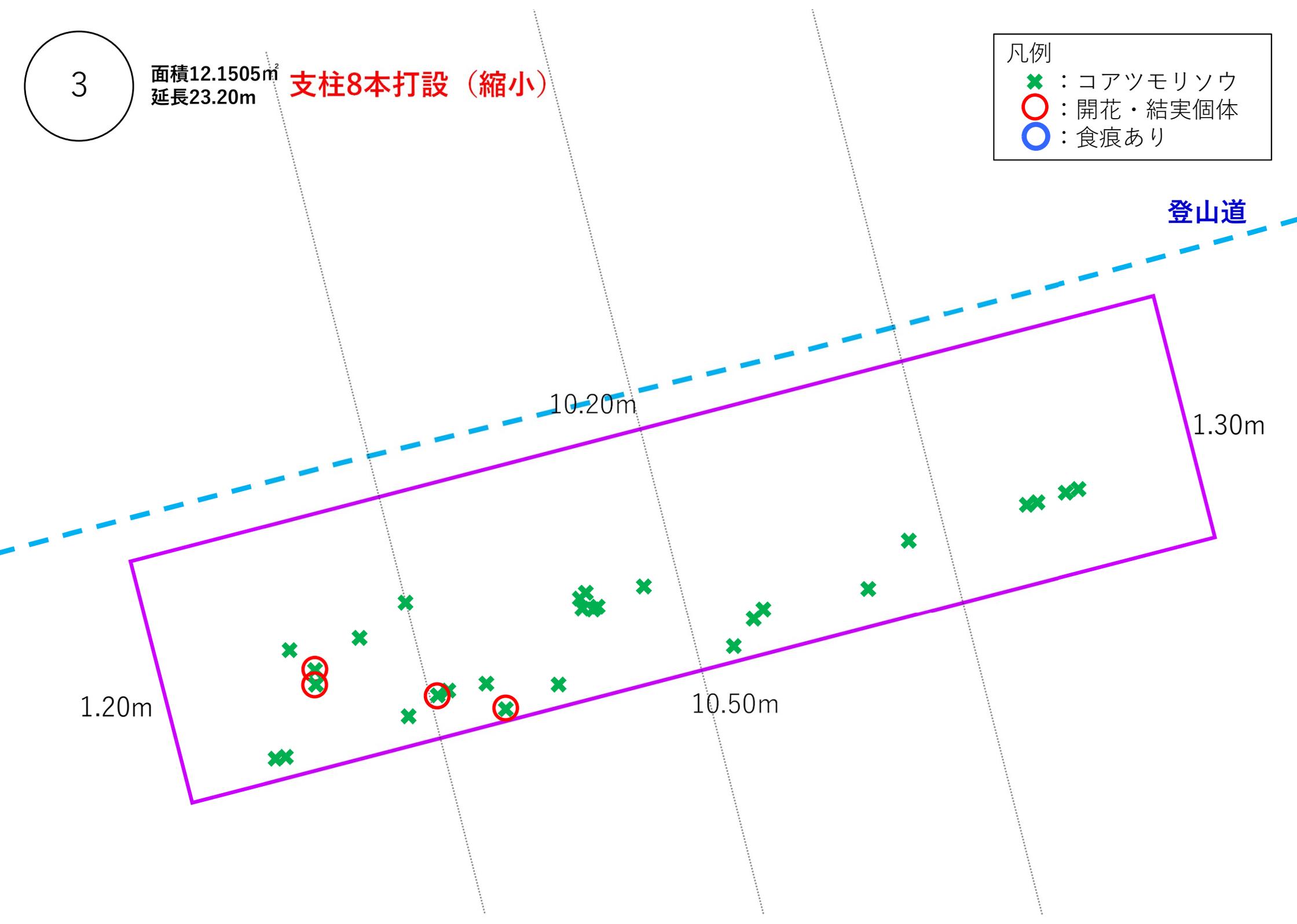


3

面積12.1505m<sup>2</sup>  
延長23.20m

支柱8本打設 (縮小)

- 凡例
- ✕ : コアツモリソウ
  - : 開花・結実個体
  - : 食痕あり



登山道

10.20m

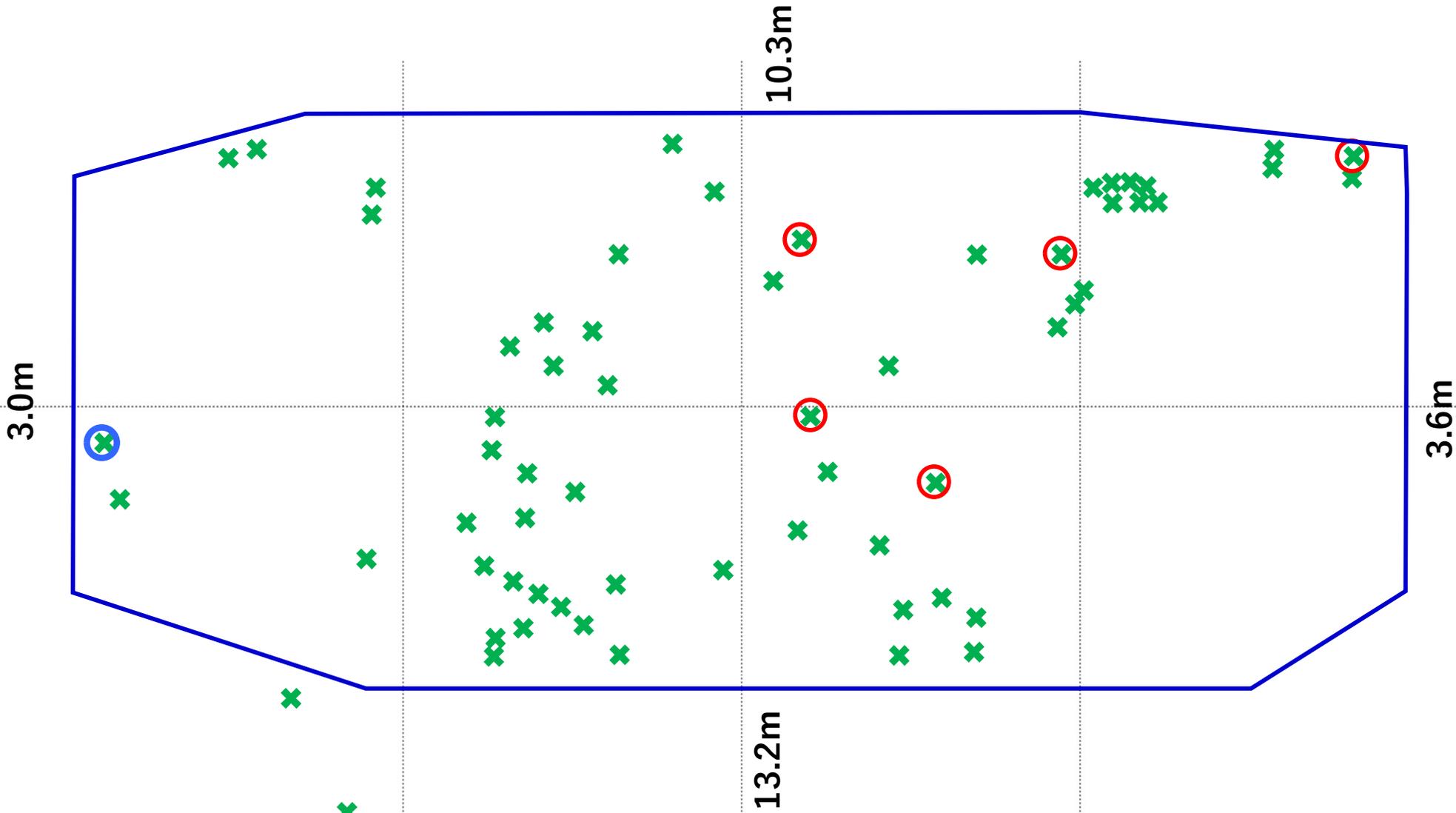
1.30m

1.20m

10.50m

登山道

- 凡例
- ✕ : コアツモリソウ
  - : 開花・結実個体
  - : 食痕あり



## 早池峰シカ監視員による自動撮影カメラ調査結果について

## 【調査の概要】

- ・ うすゆき山荘～河原の坊地区に2台、小田越地区～早池峰山山頂付近に3台のカメラを設置し、シカの生息状況を調査した。
- ・ 得られた画像を解析し、シカを同定した上で、撮影頻度（1日当たりの撮影頭数（撮影頭数／撮影日数））を算定した。
- ・ 令和元年度からの定点観測により、シカの動向について十分に情報が得られたこと等から、令和5年度以降、カメラの設置台数を減らすことで維持管理の負担を軽減し、シカ監視員による捕獲に重点をシフトした。

## 1 撮影頻度の比較(同一個体による重複を除く)

## (1) 年度ごとの撮影頻度の比較

(単位:頭/日)

エリア	標高 (m)	設置場所	カメラNo.	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6※	増減(R5/R4、%)	
河原の坊	940	うすゆき山荘から300m西側	S01	2.64	2.16	1.55	1.33	0.60	0.62	0.71	115%	
	1,065	ビジターセンター西側	S02	0.91	0.56	1.25	1.04	2.04	2.01	2.24	111%	
小田越	1,180	小田越下	I08	0.75	1.06	0.71	0.69	0.32	1.00	0.64	64%	
	1,370	小田越一合目下樹林帯	I11	1.18	1.17	1.58	0.57	0.54	0.91	0.91	100%	
	1,530	小田越二合目水場	I12	0.7	1.13	0.23	0.26	0.31	0.28	0.04	14%	※撮影頻度小

※ R5年度より撮影頻度が増加した地点

(2) 令和6年5月～10月の各カメラの撮影結果

(単位:頭/日)

エリア	標高 (m)	設置場所	カメラNo.	設置開始	設置終了	設置日数	シカ♂	シカ♀	シカ仔	シカ不明	シカ計	1日当	備考
河原の坊	940	うすゆき山荘から300m西側	S01	5/3	10/31	182	26	70	3	30	129	0.71	
	1,065	ビジターセンター西側	S02	5/3	10/31	182	95	256	32	24	407	2.24	
小田越	1,180	小田越下	I08	5/3	10/24	175	24	58	9	21	112	0.64	
	1,370	小田越一合目下樹林帯	I11	5/6	10/21	169	58	65	9	22	154	0.91	
	1,530	小田越二合目水場	I12	5/3	10/21	172	5	0	0	0	5	0.04	欠測5/26～7/10 (46日間)

2 結果

河原の坊：標高940m（カメラS01）、標高1,065m（S02）では増加した。

小田越：標高1,370m以下（カメラI08、I11）ではR5年度は、増加だったが、R6年度は横ばい～減少

3 まとめ

昨年度と比較して、シカの撮影頻度が増加した地点は5地点のうち2地点となった。

また、防鹿柵を設置している小田越においては、横ばい傾向にあり、引き続き、注視する必要がある。

## 早池峰シカ監視員報告書とりまとめ

## 1 清水シカ監視員 [主に花巻地域を担当]

時期	内容
R6. 5. 3	・シカ監視用カメラを設置
R6. 6. 6	・侵入が本格的に入ると思われる5月中旬から撮影頭数が急増した。 ・オス個体は、先発隊として侵入する若い個体が多い。 ・河原坊登山道付近の頭数が多いのは上部の積雪量が少なく若草が萌える時期まで留まる個体が多いためと考えられる。
R6. 6. 12	・No. 6 10頭の個体が写っていた。 出現率 1.42 頭/日 ・No. 7 11頭の個体が写っていた。 出現率 1.57 頭/日 ・No. 8 1頭 出現率 0.14 頭/日
R6. 6. 27	・6月の出現率は、5月と比較し減少傾向   <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">監視カメラ S-02 (河原の坊) 三年前から河原坊地域で確認されている GPS 装着のメス個体と幼シカ</div>
R6. 8. 15	・7/中旬～8/15 河原坊付近の出現率が増加、侵入コースの清廉ノ滝などは減少している、 <u>採食・繁殖地区に定着した結果</u> と考える。 ・今後、 <u>中腹付近に居たオスが8月下旬から下り始め河原坊地域などで繁殖行動が始まる。</u>   <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;">S-02 (河原の坊) : カメラに写った6頭の群 (成獣5頭幼子1頭)</div>
R6. 9. 12	・瞑想ノ滝左岸を踏査中、小群れに出遭いメスシカ1頭を捕獲
R6. 9. 19	・清廉ノ滝に設置の監視カメラに8月2日イノシシ1頭が写っていた。昨年10月には2頭が撮影されている事から付近に積雪期を除く期間、生息している可能性が高いと考えられる。

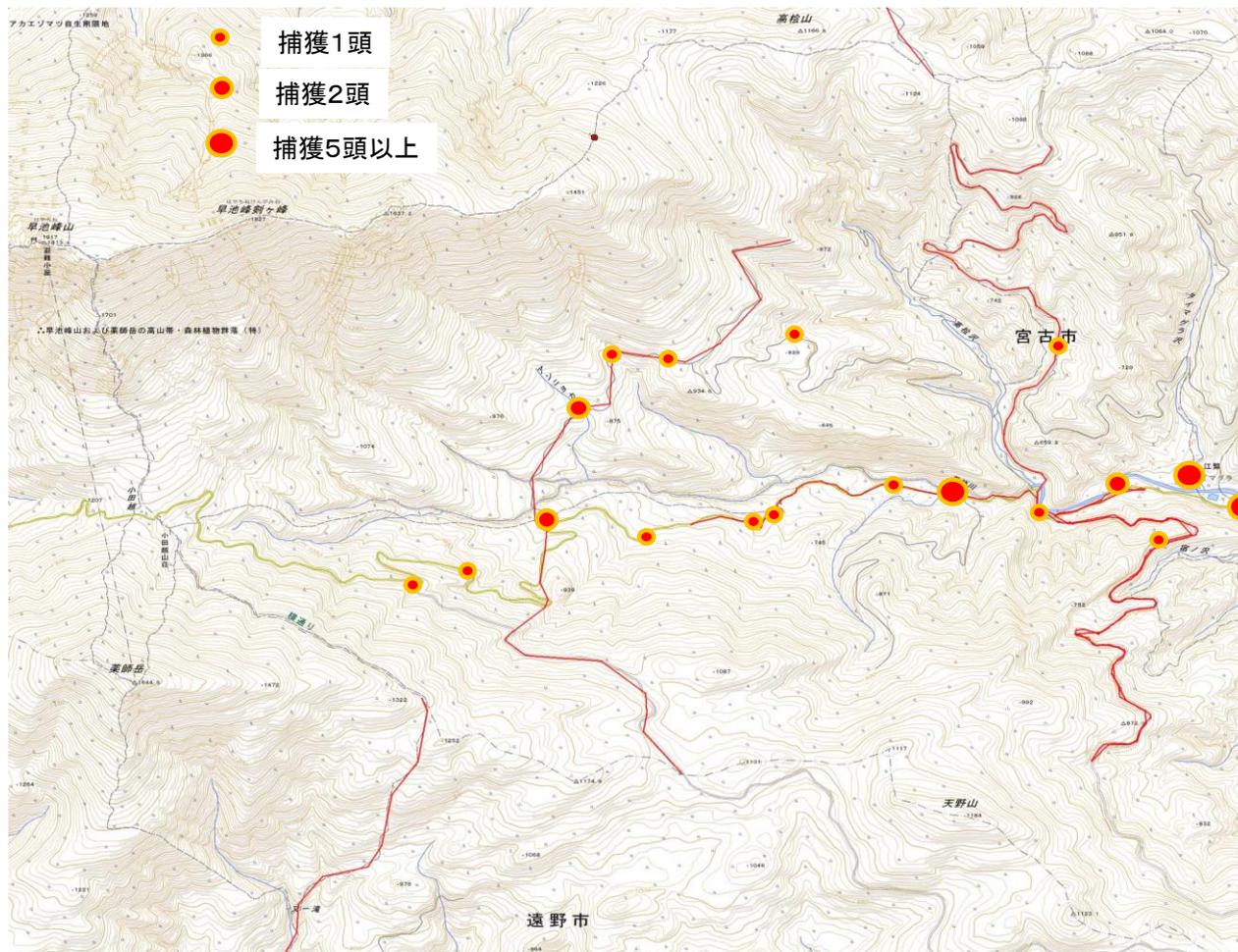
		<p>撮影場所：清廉ノ滝上流 100m 撮影日：令和6年8月23日</p>
<p>R6. 10. 01 R6. 10. 09 R6. 10. 15</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メス1頭を捕獲。河原坊付近で朝夕、オスシカの縄張りコールが、数度聞こえたことから繁殖行動が最盛期であると考えられる。(10月1日)</li> <li>・現在、早池峰地域は繁殖期盛期であり色々な方向からオスの繁殖期に発するコールが聞こえ、林床の落ち葉には明瞭な足跡が縦横に残っていた事から相当数の個体が生息していると思われる。</li> <li>・<u>林床は下草や笹がほぼ無い状態でシカが好まない種類が残っている状況にある。</u>この様な状態はうすゆき山荘付近でも最近感じるようになって来ており、今後悪化が懸念される。<u>清廉ノ滝の沢両岸や笠詰地区は積雪量が多くなる時期までシカは留まり、又、春早くシカが侵入する為特に被害が酷いと感じる地域の一つである。</u></li> <li>・ オスシカ1頭を捕獲した。(10月15日)</li> </ul>	
<p>R6. 11. 11</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瞑想ノ滝左岸と清廉ノ滝右岸の地域を約2.5Km踏査、足跡や痕跡が少ない事から既に<u>多くのシカは更に標高の低いふもとに移動したと感じた。</u></li> <li>・監視カメラ記録に依ると降雪があった<u>11月7日の午前中に44頭のシカがコメガモリ沢上流から下流に移動する姿が写っていた事から同時期に一斉に移動したと考えられる。</u></li> <li>・10/27午前11時頃、イノシシ1頭発見</li> </ul>	

## 2 井上シカ監視員 [主に宮古地域を担当]

時期	内容
R6. 4. 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡視箇所：県道から荒川分岐付近まで</li> <li>・荒川分岐前後の標高 1,000m を超える所でのシカの上りはごくわずかとみて良い。<u>目撃数も昨年よりも少ないものとなっている。</u></li> <li>・残雪は例年よりもだいぶ少ないため、目撃数減は不思議であるが、3月の大量捕獲の影響があるかもしれない。</li> </ul>
R6. 5. 4、 5. 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県道はゲートインして、荒川分岐付近まで、ゲート上 1.5 km 地点で、7頭の群れに遭遇。1頭捕獲。</li> <li>・監視カメラ I-8 I-11 I-12 M-20 G 計5台設置</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="405 674 783 936">  <p>I-8</p> </div> <div data-bbox="852 674 1206 936">  <p>M-20</p> </div> </div>
R6. 9. 19 R6. 9. 20 R6. 9. 30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイマグラ～（県道 25 号）～小田越～荒川林道（荒川林道は宮古市分のみ）～砥草林道～市道横沢線（9. 19）</li> <li>・監視カメラ春季解析速報（9. 19）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>令和6年度 各地点のシカ出現初認日</p> <p>I-8：小田越下旧道 4月27日 <u>昨年比 19日遅い</u></p> <p>I-11：一合目下樹林帯 5月20日 <u>昨年比 8日遅い</u></p> <p>I-12：二合目シカ柵 出現ナシ</p> <p>M-20：三合目 5月27日 <u>昨年出現ナシ</u></p> <p>G：薬師岳シカ柵 5月12日 <u>一昨年度比 10日早い</u></p> <p>昨年よりは春の上りが遅い傾向があったと思われる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡視コースは 9. 19 と同じ。目撃は各所、満遍なく、雄、雌混在。<u>コースは標高 1,000m より上で多いと思われる。</u>ほとんどの目撃個体は夏毛だった。</li> <li>・シカ 1 頭捕獲</li> </ul>
R6. 10. 2 10. 4 10. 9 10. 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイマグラ～（県道 25 号）～小田越～荒川林道（荒川林道は宮古市分のみ）～砥草林道～市道横沢線を巡視。（10. 2）</li> <li>・砥草林道を中心に周辺踏査、<u>目撃少ないが、堀跡多数。県道 25 号線での夕方の目撃が多く、ほとんど雄個体</u>（10. 9）</li> </ul>
R6. 11. 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイマグラ～（県道 25 号）～小田越～荒川林道（荒川林道は宮古市分のみ）～砥草林道～市道横沢線。</li> <li>・<u>個体目撃は各所であったが、概ね標高 800m 以下の地域に絞られつつある。</u></li> </ul>

資料NO4-5(補足)

令和6年 早池峰東麓 ニホンジカ捕獲位置図 (2024年4月~12月) ※井上シカ監視員(主として宮古地区)提供資料



	日付	雌雄	猟法
1	4月3日	♀	銃
2	4月12日	♀	銃
3	5月1日	♂	わな
4	5月4日	♂	わな
5	5月6日	♂	銃
6	6月2日	♂	銃
7	6月2日	♂	銃
8	6月23日	♀	銃
9	9月30日	♂	銃
10	10月15日	♂	銃
11	10月17日	♂	銃
12	10月23日	♂	銃
13	10月25日	♂	銃
14	10月25日	♂	銃
15	10月26日	♂	銃
16	10月28日	♂	銃
17	10月29日	♂	銃
18	11月10日	♂	わな
19	11月10日	♂	わな
20	11月13日	♂	わな
21	11月13日	♂	銃
22	11月14日	♂	わな
23	11月15日	♂	わな
24	11月16日	♀	わな
25	11月16日	♀	わな
26	11月17日	♀	わな
27	11月22日	♂	銃
28	11月22日	♀	わな
29	11月24日	♀	わな
30	12月13日	♀	わな
31	12月13日	♀	わな
32	12月19日	♀	わな
33	12月20日	♀	わな
2024年春期~冬前期捕獲 計33頭			

【補足】

- ・春から秋にかけては罠の設置は極力控えている。(錯誤捕獲のため)
- ・11月以降は罠捕獲がメインになり、♀が捕獲しやすくなる。
- ・11月初旬まで小田越周辺に個体はいるが、このエリアでの捕獲は、登山者がいるため、安全上困難。
- ・厳冬期(1月~3月)は、図に示した標高500m以上の地域のシカは減少する。
- ・早池峰東麓における越冬ラインは概ね標高700m付近と考える。

## 早池峰地域への防鹿柵の設置結果について

## 1 防鹿柵設置の経緯

平成 30 年 3 月に開催された早池峰地域シカ対策部会において、早池峰地域の高山植物をシカの食害から守るための防鹿柵の設置について提案を受け、平成 30 年度から東北森林管理局と連携して高山植物の群生地等に防鹿柵を設置している。

## 2 令和 6 年度の設置概要

令和 6 年度の岩手県及び東北森林管理局による防鹿柵設置概要は以下のとおりであり、設置の総延長は 1,123m（岩手県分 750m、東北森林管理局分 373m）となっている。

	位置	場 所	期 間	概 要	備 考
岩手県	A	河原の坊	R6. 5. 21～10. 17	3 か所（周囲 15m、35m、50m）	H30 新設
	B	小田越 2 合目	R6. 5. 21～10. 17	1 か所（周囲 340m）	R1 新設 R2 150m増設
	C	小田越登山口	R6. 5. 21～10. 17	1 か所（周囲 70m）	R1 新設
	D	薬師岳登山口	R6. 5. 21～10. 17	1 か所（周囲 40m）	R1 新設
	E	県道 25 号線沿い	R6. 5. 21～10. 17	3 か所（周囲 40m、70m、90m）	R2 新設
	計			9 か所 750m	
東北森林管理局	ア	門馬	R6. 5. 18～10. 18	6 か所（周囲 30m、23m） ※R6 新設 （19m、14m、18.5m×2）	H30 新設 R6 4 箇所新設
	イ	河原の坊	R6. 5. 12～10. 18	3 か所（周囲 50m×2、150m）	H30 新設 R1 100m増設 R3 50m新設
	計			9 か所 373m	

※令和 5 年度まで、東北森林管理局が実施していた小田越 3～4 合目については、裸地化により植生の回復見込みが低いことから実施箇所から除外。

## 3 結果

これまでの実施結果は次のとおり。

## [成果]

- (1) 柵を設置した内部では植生が回復しており、食害防止に一定の効果がある。
- (2) 防鹿柵設置後の網の緩みや支柱の傾き等を原因とする柵内へのシカ侵入については、県・ボランティアの協力もと、県設置柵の設置後メンテナンスを 7/13（小田越 2 合目）及び 9/5（薬師岳登山口、小田越 2 合目）の 2 回実施。

## [課題]

- (1) 小田越 2 合目の防鹿柵については、度々シカの侵入があるため、設置時に正しく網を張る、ペグの間隔を狭める、ペグを打ち込み方向の調整など、防鹿柵設置のメンテナンスを定期的に行う必要があること。
- (2) 小田越 2 合目の防鹿柵は、岩を避けて支柱を打っており、地中と網の間に隙間が出来てしまうため、シカが網の下から潜って柵内に進入していることから、次年度は岩を囲むように支柱を打ち直し、広く網を張る対応を検討する必要がある。

**【参考：防鹿柵の設置期間（県設置分）】**

- H30：8月27日から11月1日（67日間）
- R1：7月22日から10月24日（95日間）
- R2：5月26日から10月28日（156日間）
- R3：5月20日から10月29日（163日間）
- R4：5月19日から10月26日（161日間）
- R5：5月30日から10月26日（150日間）
- R6：5月21日から10月17日（150日間）

## 現状と今後の取組について

### 1 早池峰地域のシカ対策の経過

- ・ 早池峰山周辺地域ではシカの生息数の増加に伴い、高山植物への食害が発生したことから、県では、平成 26 年度に、関係機関との情報交換及び連携を図るため、シカ対策部会を設置。
- ・ 平成 30 年度から、東北森林管理局と連携して防鹿柵の設置を開始した。
- ・ 捕獲については、平成 28 年度からシカ監視員による捕獲を実施しているほか、令和元年度より、早池峰山周辺地域での県捕獲事業（指定管理鳥獣捕獲等事業）を実施しているところである。
- ・ 東北森林管理署においても、シカの被害対策の情報共有や意見交換を行うと共に、「被害防除対策」「個体数調整対策」の推進に取り組んでいるところである。

### 2 課題

#### (1) 防護

- ・ 県及び東北森林管理局の 2 者が中心となって設置している防鹿柵の設置箇所のこれ以上の拡大は、予算や人員体制の面から、困難な状況となっている。
- ・ 今後、設置箇所を拡大するにあたっては、早池峰山の環境保全対策に関わるすべての関係者の主体的な関与が必要不可欠となっている。

#### (2) 捕獲

- ・ これまで、上記取り組みにより、シカの捕獲を進めてきたところであるが、シカの生息数に大きな減少は見られない。
- ・ これ以上のシカの増加を防ぐため、引き続き、県の捕獲事業等によりシカの捕獲圧を維持する必要がある。

### 3 対応

#### (1) 防護

- ・ シカの生息地域の拡大に伴い、高山植物の食害が早池峰山全域で確認されていることから、防鹿柵の設置箇所を拡大する必要性については、早池峰山の環境保全に関わる多くの関係者が認識しているところ。
- ・ 上記の課題に記載のとおり、防鹿柵設置の拡大にあたっては、早池峰山の環境保全に関わる関係機関が主体性をもって実施していく必要があること。
- ・ このため、今後の対応については、県及び東北森林管理局の 2 者以外の関係機関にも、防鹿柵の設置・管理（メンテナンス）に、主体的に関与していただきたい。
- ・ なお、令和 7 年度の防鹿柵の設置については、現状の対応を維持しながら、今後の防鹿柵の設置や管理の体制について検討することとする。

[令和7年度の防鹿柵設置対応（案）]

項目	現状	今後の対応案
防鹿柵 設置始期	県道通行止め解除後の、 雪融け時期に実施	▶状況を注視して、年度ごとに検討 →7年度も、ゲート解放後の早めの柵の設置を検討
防鹿柵の設置箇所・延長	岩手県分：9か所 750m 東北森林管理局分： 9か所 373m	▶現状を維持 →設置箇所の拡大については、実施体制を含めて令和7年度に検討。
柵内侵入対策 (設置方法)	・設置時に網をしっかり張る対応を継続 ・ペグの間隔を狭める 打ち込む方向を調整	▶設置時の工夫に関しては対応を維持 なお、小田越2合目については、岩部分を含めて大きく囲うなどの改善を実施予定
設置後 メンテナンス	・シカ監視員による見回りの実施 ・防鹿柵設置後のメンテナンスを2回実施	▶設置後のメンテナンス →設置中の柵の巡視に努める。 ・巡視回数は、現状を維持しつつ、回数の増加については、設置後関係機関で調整 ・シカ監視員による防鹿柵の見回りの継続

(2) 捕獲

- ・引き続き、県の捕獲事業（11～2月、指定管理鳥獣捕獲等事業）により、シカの捕獲を推進していく。なお、令和6年度の同事業では、早池峰山周辺地域区域において1,400頭を捕獲（全体：10,000頭）することとしている。
- ・その他、シカ監視員による捕獲や、公益社団法人岩手県猟友会が行うシカ一斉捕獲との連携により、早池峰山周辺地域におけるシカ捕獲圧を維持する。

## 令和5年度早池峰地域シカ対策部会意見一覧

年月日		【意見】	〔対応状況〕
R6.2.6	1	・令和5年度も柵内にシカの侵入（下からの潜り込み）があった。防鹿柵設置マニュアル（網の張り方等）を作成して、作業前に実施手順等を確認してから、作業を行ってはどうか。	⇒令和6年度の防鹿柵の設置作業（網上げ作業）と併せて、防鹿柵設置マニュアルを作成した。
	2	・防鹿柵の設置について、標高の低い位置に設置された柵（薬師岳、小田越1合目、県道沿い）については、ゲートの開通と同時に網上げ作業を行わないと、シカが柵内の植物を食べてしまう。一方で標高の高い位置では、ゲート開通時期には、まだ雪が残っているので、作業時期をずらして（2回に分けて）実施する必要がある。	⇒令和6年度は山頂の雪解けが早く、5月21日に一斉に網上げ作業を実施して対応した。年によって気象状況が異なるので、段階的な作業実施も視野にいれ、予備日等を設定しながら作業日を検討する。
	3	・柵設置後の柵のメンテナンスの実施について、シカ監視員に依頼するとのことであるが、実質対応できるのは一人であり対応として不十分である。 一度、柵設置作業に関わる関係者で集まって、メンテナンスを含めた対応について具体的な話し合いを行ってはどうか。	⇒令和6年3月12日に、関係者間（自然保護課、早池峰グリーンボランティアの会、早池峰フォーラム実行委員会、鈴木まほろ先生）で防鹿柵設置に係る意見交換を実施した。
	4	・防鹿柵設置した後の定期的なメンテナンスの実施は必要である。シカがぶつかって倒した支柱の修繕や、シカの潜り込みのあった箇所へペグを打ち直すといった作業は必ず発生するので、防鹿柵の効果を高めるためにも、メンテナンスは必要。	⇒令和6年度は、自然保護課と早池峰グリーンボランティアの協力を得て、7月13日と9月5日にメンテナンスを行った。
	5	・県と国が防鹿柵を設置して5年となるが、わずか15箇所、1,500mの間でシカ対策が間に合っているといえるのか疑問。今後、防鹿柵の設置を増やすといった対策はできないのか。	⇒県及び東北森林管理局の2者が中心となって設置している防鹿柵の設置箇所のこれ以上拡大は、予算や人員体制の面から、困難な状況となっている。 今後、設置箇所を拡大するにあたっては、早池峰山の環境保全対策に関わるすべての関係者の主体的な関与が必要不可欠である。 今後の対応については、県及び東北森林管理局の2者以外の関係機関にも、防鹿柵の設置・管理（メンテナンス）に、主体的に関与していただきたい。
	6	・山頂での防鹿柵の設置作業は、作業場所までの移動に1時間以上かかり、その後不安定な場所での網上げ・下げ作業を行って、また山を降りてくるのに1時間かかるため、ほぼ1日がかりの作業となる。 若い人に参加してもらうのが望ましいが、そういったことに関心がある方もなかなかいない現状の中で、拡大していくことは現実的に困難であるので、今ある範囲内で、守るべきところを守るという対策は大切である。	⇒県及び東北森林管理局の2者が中心となって設置している防鹿柵の設置箇所のこれ以上拡大は、予算や人員体制の面から、困難な状況となっている。 今後、設置箇所を拡大するにあたっては、早池峰山の環境保全対策に関わるすべての関係者の主体的な関与が必要不可欠である。 今後の対応については、県及び東北森林管理局の2者以外の関係機関にも、防鹿柵の設置・管理（メンテナンス）に、主体的に関与していただきたい。